

# 第104回 全国高等学校野球選手権大会

## 西東京大会 2回戦

2022年7月11日(月)

球場   スリーポンドベースボールパーク上柚木   プレイボール   12:20   ゲームセット   13:30		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
	<b>井草・大泉・田柄</b>	0	0	0	0	0											0
	<b>工学院大付</b>	1	1	12	5	X											19

<b>先攻</b>	<b>井草・大泉・田柄</b>	<b>後攻</b>	<b>工学院大付</b>	<b>備考</b> 【二回戦】5回コールド
<b>投手</b>	青木 熊切	<b>投手</b>		
<b>捕手</b>	広瀬	<b>捕手</b>		
<b>本塁打</b>		<b>本塁打</b>		
<b>三塁打</b>		<b>三塁打</b>		
<b>二塁打</b>		<b>二塁打</b>		

井草・大泉・田柄（西東京）の連合チームは、11日に工学院大付との初戦に臨んだ。4人の3年生の内訳は、井草が2人、大泉が1人、田柄が1人。そのため、大泉と田柄の3年生は、同じ高校に同学年の部員がいないことになる。しかし2人は「連合チームだから、1人だとは思わなかった」と口をそろえた。

最大の要因は、チームで過ごした時間にあった。高校野球連盟の規定で、新入生が加入して部員が9人以上になると、単独出場しなければならないルールがあるため、大会ごとに解体を強いられる。そうした中、この3校が連合チームをスタートさせたのは、2020年8月。2年近くも同じメンバーで、週1回は練習や試合を重ねてきた。池本 澗月外野手（3年＝田柄）は、たった1人の3年生だったが、「やめたいと思ったことはない」と言い切った。連合チームだからこそ、野球を続けられた。



練習後には、別々の学校に通う3年生4人でファストフード店へ行き、チームの課題やプロ野球の話に花を咲かせることもあった。

4人とも「互い仲良くなれたと思う」と照れ笑いを浮かべた。チームを組んで2年。「点差が離れても、今までやってきたことを、チームとして出せるようにしたい」。

“チームとして”の部分に、ひときわ力を込めて臨んだこの1戦。結果は19点取られての大敗だったが2年かけて成熟させたチームワークでチャレンジできた夏に後悔はなかった。



### <部員よりご挨拶>

部員不足で公式戦に出られない時期もありましたが、お陰様で連合チームとして、活発な活動ができるようになっております。今後は、都立田柄高校硬式野球部の単独出場を目指して頑張ります。応援のほど、よろしくお願い致します。